

◆男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会  
（平成27年度第2回）  
議 事 録

2015年9月25日（金）開催

時 間	15:00～17:00		場 所	地盤工学会会議室	
田中委員長	○	亀村オブザーバー	○	山口（恵）委員	○
西岡オブザーバー	×	岩崎委員	○	熊野委員	×
渡邊委員	○	清木委員	○	隅倉委員	○
高原委員	○	片岡委員	○	山口（智）委員	×
鳥巢オブザーバー	○				

○：出席　×：欠席　△：未定

議事録担当者の選出順

熊野委員(26-4) → 隅倉委員(27-1) → 高原委員(27-2) → 片岡委員(27-3)

議事録担当：高原

【前回議事録の確認】

【別紙-1】 pp.1-2

- すでにメール審議済みでもあり、承認された。

【報告事項】

1. 会員・支部部の動き（田中委員長）

【別紙-2】 pp.3～7

- シニア会員を対象とした行事に関して各支部に現状を問い合わせたが、3支部が行事を実施、3支部が未確認、残りが未実施ということで、中部支部以外は手探り状態であることが報告された。
- 講師代など、予算面の問題もあるとのことであった。

2. 土木学会ダイバーシティ推進委員会動向（田中委員長）

【別紙-3】 p.8

- 若手技術者パワーアップ小委員会（全国大会研究討論会）についての報告があり、会員・非会員の区別なく、Twitter上で意見を募集したり、感覚に訴えるような工夫をしたりして、精力的に活動されていることが紹介された。

3. 男女共同参画学協会連絡会関連（山口（恵）委員）

【別紙-4】 pp.9～10

- 第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムについて説明があり、本年度の学会からの派遣を清木委員にお願いすることとなった。

4. 夏の学校参加報告（岩崎委員）

【別紙-5】 pp.11～14

- 本年の夏の学校も無事終了した旨の報告があり、学会誌、FB用、委員会WEBサイト用、ジオ鉄用の報告書がそれぞれ示された。FBには清木委員がすでにアップ済みとの報告がなされた。
- 参加者がグループではなく、個人個人でブースに来るために、液状化など手間のかかる展示の運営について今後検討する必要があることが報告された。（スタッフの人員を増やす?）
- 泥団子は好評で今後も続けたいとのことであった。

- ジオ鉄 MAP 配布のためには登録更新が必要であり、来年の 9 月までであるので、次年度担当者は注意するようにとのことであった。
- 広報委員会（清木委員）から、記録用に使用した A2 版のポスターの電子ファイルでの提供依頼があり、岩崎委員が対応することになった。合わせて、キャリアパスのポスターなども伊佐治さんに渡すことになった。
- 岩崎委員の産休に伴う欠員補充として、高原委員より日本工営の藤澤さんの紹介があり、次回 12 月の第 3 回委員会からオブザーバーで参加してもらえないか打診することとなった。

#### 5. ダイバーシティ特別セッション開催報告（片岡委員） 【別紙 - 6】 pp.15～19

- 札幌大会での特別セッションの開催報告及びアンケート結果の説明があった。アンケート回答者は 40～50 代が多く、若手の回答率が低いようであることが報告された。
- 興味の有るテーマ、来年実施して欲しいテーマとして「男女共同参画」が最も多く、依然として関心の高いテーマであることが示された。
- 田中委員長と隅倉委員の話題提供の様子は動画として You tube にすでにアップされており、その他の話題提供者についても順次アップされるのではないかとのことであった。
- 講演者には動画撮影及び公開の許可を得ているが、後ろ向きではあるが、映り込む聴衆に関しては特に対策を取っていなかったが、次回以降は最初に撮影とその利用に関してアナウンスすることとした。
- アンケート結果の掲載は学会誌報告執筆者の裁量に任せるが、WEB への掲載は今後検討することとなった。

#### 6. サロン・土・カフェ W 開催報告（高原委員） 【別紙 - 7】 pp.20～21

- 札幌大会でのカフェは前年から続いて、予定の 30 名を上回る 37 名の参加があり、次年度から 40 名参加を前提とした開催が提案された。
- アンケート結果から、会費は妥当であることが確認され、充実した内容であったとか、もっと話したかったという意見があり、概ね成功であったことが報告された。
- （アンケート結果の掲載は、上記特別セッションと同じ。）

### 【審議事項】

#### 1. ダイバーシティ小特集号（渡邊委員） 【当日配布資料】

- 委員会 10 周年記念として企画された学会誌のダイバーシティ委員会小特集号について、企画自体が好評であったため継続企画とする方向であるが、当初の特集号においてもいくつかの問題があり、今後の方針を決定したい旨の説明があった。
- 問題点は 3 つで、□寄稿文を学会誌にするか、委員会の WEB にアップする自由なものにするか、□学会誌形式にするなら、最終校正と編集は新日本編集企画などに依頼する予算を獲得する必要があるのではないかと、□年間どのくらいの人数に寄稿していただくか？
- □寄稿文の形態→学会誌＋WEB 版

- 平成 27 年 7 月号の小特集号では、紙面の関係で WEB 版学会誌とせざるを得ない寄稿文が 10 編存在したが、結果的には非会員も閲覧できるため効果的であるとのことで、学会誌としての体裁を保ちながら（ページ番号を取得し、会誌の目次に掲載される）WEB 版として公開する方向で進めることとなった。
- □最終編集を依頼
  - 査読と単純な校正等は委員会で行うとしても、体裁などを含む最終校正は他の会誌原稿と同じく新日本企画編集に依頼できないかと意見が多く、渡邊委員が会誌運営委員会の状況を確認することとなった。
- □寄稿者の選定と年間スケジュール
  - 各委員が 1～2 名の候補者に原稿依頼をかけ、寄稿された順に掲載する案が示された。
  - 3 ヶ月に 1 度程度、年間 4 名程度が妥当ではないかという意見があったが、上記事項ともに引き続き審議事項とすることになった。
- 小特集号の寄稿文は紙媒体を含め、表紙、目次をつけ 100 部印刷して配布することになっており、配布先の検討が行われた。高校や大学に直接送っても効果が薄いため、委員による持ち込みが提案されたが、配布先への部数や優先順位などもあり、引き続きメール審議することとなった。

## 2. メンター制度について（鳥巢オブザーバー）

【別紙－8】 pp.22～32

- メンター制について、イギリスでの鳥巢委員の経験も含め、アメリカでの事情などが詳細に報告された。
- 海外では日本と就業に対する意識の違いがあり、個人が自らのキャリアパスを選定・設定していく必要があり、そのための制度であることが紹介された。また、メンターは JGS が想定しているシニアだけではないために、インセンティブをつけて確保していることなどが、紹介された。
- 適切なメンターとの引合せがシステムとして重要であり、ICE や ASCE では WEB システムを構築して対応しているとのことであった。メンターとメンティとのやりとりも、スカイプなどネット環境が有効に用いられているようである。
- 日本のように会社の上司が部下のキャリアパスを形成する場合は、海外の事例をそのまま導入することは難しいため、「導入したい技術の相談」、「資格取得」、「就業に関する相談（女性技術者）」などの項目で、取り寄せるべき資料や取り組み方についてのアドバイスをするような制度にしてはどうかという意見が出された。学会で実施すべき内容や位置づけに関して、不明確な部分も多いため、継続審議とし、今後各委員の意見を集約することとなった。

## 3. サポーターメール配信（山口委員）

- 札幌大会など各種行事の開催お礼と、技術者紹介の募集を、全国大会の報告が掲載される学会誌 12 月号に合わせて配信することが決まった。

## 4. 委員会 HP の更新（田中委員長）

【別紙 - 9】 pp.33～37

- 情報発信のページとしては現在は大変使いづらい状態であり、全面改訂は難しいものの、原稿でできる範囲で階層化することが望ましいとの意見で一致した。改修案のたたき台を片岡委員が作成していただけることとなった。

5. 来年度の予算申請（田中委員長）

- 今年度予算を基本に、小特集号編集費など必要に応じて追加検討することとなった。

5. 次回開催日の確認： 2015年12月

- 次回は12月9日水曜日、15:00～17:00、中会議室で実施の予定。